聴覚障害者及び視覚障害者のための大学

筑波技術大学ニュース

第 33 号　発行日：2015年２月　www.tsukuba-tech.ac.jp

国立大学法人
筑波技術大学

筑波技術大学では、筑波技術大学ニュースのメール配信を行っております。ご希望の方は、件名を「筑波技術大学メール配信希望」、本文に、「団体名（個人名）」をご記入の上、筑波技術大学総務課企画・広報係（kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp）までメールにてご連絡ください。

学長年頭あいさつ

皆様には気持ちも新たに、新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。年頭に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

振り返ってみますと、この６年の間に「大学院の設置」をはじめ、「教職課程の開設」や医療センターの「リハビリテーション科の開設」、「大学基金の設立」、紫峰会館の改修による「学生支援棟の整備」等々に続き、昨年は「情報保障支援係の整備」、そして大学院「情報アクセシビリティ専攻の開設」が実現し、お陰様で大学としてさらなる充実を図ることができました。しかし、これらのほとんどは、大学としては箱物、容器の整備であり、教育と研究の中身、内容の充実、質的向上に関しては、その方策として、アカデミック・アドバイザー制やGPA制、修学ポートフォリオ、科研費の報奨金制度を導入したものの、まだまだ未達成であると感じています。

また、本年においては、第２期中期目標期間の最終年として、各大学に提示されている大学の機能強化、大学改革実行プランへの対応を加速するとともに、本学は「特定の分野で世界的な教育研究を目指すとともに、全国的な教育研究拠点としての機能を果たす大学」として第３期中期目標中期計画を作成し、実行しなければなりません。

さらに、来年４月の障害者差別解消法の施行により、障害者に対する合理的配慮が義務化されますが、本学の資源を最大限に活用し、学内のみならず、他大学への支援に取り組むことが必要です。

本年が皆様にとって、良い年になりますようにお祈り申し上げますとともに、卒業生が誇りを持って「技大卒です」と名乗れる大学としての発展を期して、年頭の挨拶とさせていただきます。

筑波技術大学長　村上　芳則

教職員の前で挨拶をする村上学長

次期学長候補者の選考について

筑波技術大学学長選考会議（議長：北原保雄 新潟産業大学学長）は、12月４日、学長選考会議を開催し、次期学長候補者として、大越教夫副学長（60）を選考しました。任期は平成27年４月１日から平成31年３月31日までの４年間です。大越副学長は、筑波大学大学院博士課程医学研究科生理学専攻を修了後、筑波大学講師を経て、平成17年に筑波技術大学の前身である筑波技術短期大学に教授として赴任しました。平成17年の４年制大学移行後は、保健科学部長を経て、平成24年４月から現職です。専門は神経内科学です。

（総務課総務係）

記者会見で抱負を語る次期学長候補者の大越教夫現副学長

筑波技術大学コミュニケーションマークの策定について

筑波技術大学では、聴覚障害者・視覚障害者のための大学として活動していくうえで、さらなる広報活動強化を目的とした「コミュニケーションマーク」を策定しました。（商標登録第 5705524 号）

●コミュニケーションマークについて

本学の成長と発展、ポジティブな拡散を感じられるデザインとしました。それぞれのオブジェクトは、聴覚障害者にとっての視覚、視覚障害者にとっての聴覚を表現し、二つのオブジェクトの組み合わせで、障害に縛られないコミュニケーションを、また、人とその周囲の社会や環境を表現しました。本マークは、総合デザイン学科鈴木拓弥准教授の原案をもとに広報室が作成しました。

●使途について

筑波技術大学が作成する広報物やグッズに使用していきます。

（広報室）

筑波技術大学コミュニケーションマーク

第７回三大学連携・障がい者のためのスポーツイベントを開催

11 月 23 日、午前 10 時から午後 3 時まで、天久保キャンパス体育館やコミュニケーションホールにおいて、「第 7 回三大学連携・障がい者のためのスポーツイベント－障がいのある人、スポーツ・遊びに参加しよう－」が開催されました。当日は晴れて、穏やかな天気に恵まれました。

実施されたのは、ビームライフル、ボルダリング、フライングディスク、自由遊び、ボッチャ、卓球バレー、ふうせん遊びの 7 種目でした。また、今回は保健科学部・大沢准教授の協力を得て、障害者スポーツに関する切手コレクションの展示も行いました。

今回はつくばマラソンの開催と重なったこともあり、スタッフを含めおよそ 90 名の参加となりました。大学の地域貢献事業として今後も発展的な継続を検討しています。なお、本イベントは筑波技術大学基金、本学障害者高等教育研究支援センター長裁量経費、日本体育学会アダプテッド・スポーツ科学専門領域活動支援金からの予算支援を受けて実施されました。

（障害者高等教育研究支援センター　天野 和彦）

ボルダリング会場と切手コレクションの展示の様子

平成 26 年度研究推進に関する講演会を開催

12 月 24 日 、天久保キャンパス講堂において、学術・社会貢献推進委員会主催の平成 26 年度研究推進に関する講演会を開催しました。今回は、筑波大学芸術系の田中佐代子准教授に「研究者のためのビジュアルデザイン入門」をテーマとして、学会発表スライドや学会発表ポスターを短時間でセンスよく仕上げるテクニックについてご講演いただきました。本学教職員・学生・院生のみならず、筑波研究学園都市の多数の研究機関からも参加があり、約 90 名の参加者で会場が埋まりました。

（学術・社会貢献推進委員会　石原 保志）

講義の様子

質疑応答の様子

筑波技術大学見学ツアーを実施

本学並びに、本学に事務局を置く日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）では、「第 10 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」の関連企画として、11 月 8 日に「筑波技術大学見学ツアー」を本学天久保キャンパスにて実施しました。

当日は、松藤みどり教授による本学の概要説明から始まり、佐藤正幸教授・大杉豊准教授、若月大輔准教授、山脇博紀准教授・下笠賢二准教授による模擬授業を行うとともに、本学の施設などをツアー形式で見学しました。見学の際には本学学生が誘導や説明を担当し、説明のパネルや誘導の指示書き等を事前に準備するなどして、活躍してくれました。

見学コースの中では、大学院技術科学研究科情報アクセシビリティ専攻の授業見学や内藤一郎産業技術学部長・三好茂樹准教授による遠隔情報保障システムの実演・解説、宮城愛美講師による視覚障害系の支援に関する説明も行われ、参加者の高い関心を得ていました。

なお、本企画は翌日の「第 10 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」参加者に限定して募集したもので、大学教職員・学生など、99 名という大変多くの方が参加しました。

（障害者高等教育研究支援センター　中島 亜紀子）

佐藤教授、大杉准教授による模擬授業の様子

本学学生が参加者に説明・誘導している様子

第 10 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムを開催

11 月 9 日、つくば国際会議場において、本学並びに本学に事務局を置く日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）が主催する「第 10 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」が開催されました。記念すべき第 10 回目となる今回は、全国の大学教職員、学生等 507 名（本学関係者含む）が参加し大変盛大な会となりました。第 1 回では 164 名の参加者でしたが、聴覚障害学生支援の広がりとともに毎年参加者が増加し、今年は初めて 500 名の大台を突破することができました。近年の聴覚障害学生支援への関心の高さと、本学並びに本ネットワークの活動が広く認知されてきたことがうかがえます。

シンポジウムの全体会 1 の様子

午前中は全体会 1 として、第 10 回を記念した特別企画「Let's talk about the future !—10 年を振り返ってこれからの日本を考える—」を行いました。第 1 部では障害者高等教育研究支援センター白澤麻弓准教授による講演「海の向こうに行ったら日本が見えた—最前線の支援に学ぶ今後の課題—」、第 2 部では聴覚障害学生支援の歴史を築いてきた講師陣を迎えての座談会「現在の到達点とこれからの日本—これまでの 10 年で行ってきたことは？これからの 10 年でなすべきことは？—」が行われ、我が国の聴覚障害学生支援の将来像を見据えた重要な指摘がなされました。

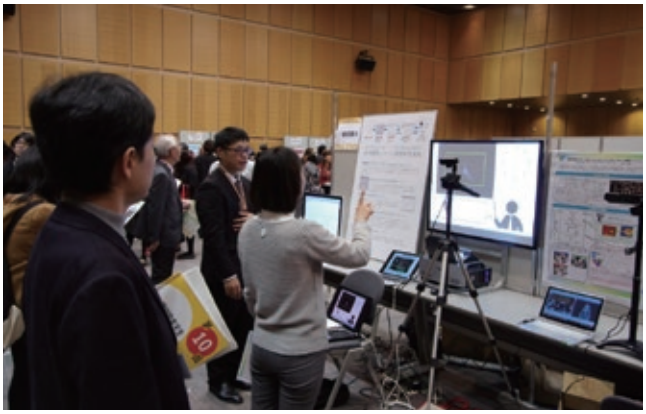
続いて行われたランチセッションでは、今回で 7 回目となる「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト」を開催し、19 の大学・団体から日頃の取り組みが紹介され、参加者の投票によって注目度の高い発表が表彰されました。また、本学からは大学・大学院紹介パネル展示の他、機器展示として本学教員、大学院生らが聴覚障害学生支援に関する日頃の研究の成果を紹介しました。

午後に設けた分科会では、(1) 本学における聴覚障害学生への指導について、一般大学においても取り入れられる具体的方法を紹介した基礎講座「聴覚障害学生から学び培う教育・支援の取り組み—筑波技術大学における実践を参考に—」、(2) 聴覚障害学生が大学時代に身につけるべきことを中心に取り上げ、聴覚障害学生のエンパワメントを考える「支援を受ける側から支援を考える立場へ！—ドキュメンタリー映像を通してエンパワメントを考える—」、(3) 遠隔情報保障の現在と将来に向けた展開について取り上げた「遠隔情報保障で変わる聴覚障害学生支援」、(4) 情報保障者の取り組みから大学の支援担当者に求められる役割を整理し利用学生の潜在的なニーズを引き出す手がかりを探る「聴覚障害学生のニーズを引き出す情報保障をめざして—手話通訳者・文字通訳者の取り組みから—」の 4 つの企画を行いました。いずれの企画も、非常に充実した意見交換が行われました。

また、前日の 11 月 8 日には「日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム第 10 回記念式典」を開催し、155 名が参加しました。第 1 部では来賓からお祝いの言葉をいただくとともに、シンポジウムのこれまでを振り返るスライドショーの上映などが行われました。続いての第 2 部では、主に教職員を対象とした「記念パーティ」と、学生を対象にした「学生情報交換会」に分かれ、参加者同士の交流の場として大変盛り上がりました。

本シンポジウムの詳細は日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）のウェブサイトでご覧いただけます。

（障害者高等教育研究支援センター　萩原 彩子）



（上）記念式典、（下）ランチセッション会場

平成 26 年度研究奨励奨学金の交付について

10 月 31 日に、学長室において、研究奨励奨学金の目録交付式が行われました。

筑波技術大学の運用益を奨学金として支給されるもので、平成 26 年度は大学院学生の研究活動の活性化のため、大学院学生 15 名に対して研究奨励奨学金を支給することとなりました。目録の交付式には大学院学生 7 名が参加し、学長から、「この研究奨励奨学金は学会出席などの研究活動に有効に使用していただき、今後も、研究活動に励んでください」と激励されました。

（聴覚障害系支援課学生係）

目録交付式後の集合写真

囲碁講演会および第 8 回囲碁・将棋大会を開催

10 月 25 日、春日キャンパス講堂において、森野節男先生をお招きして、『私と囲碁』と題した講演会を開催しました。森野先生は、関西棋院で御活躍され現在九段の段位をお持ちの棋士です。囲碁の歴史、海外での普及状況、簡単なルール説明、などわかりやすく説明していただきました。

また、講演会後に視覚障害者にも楽しめる“十三路盤、九路盤”を使用した、筑波技術大学第 8 回囲碁将棋大会を開催しました。天久保キャンパスからも学生が参加し、段位を有する学生も、まったく初心者の学生もそれぞれに先生から指導を受け、棋力や障害の違いを超えて対局するなど、大変楽しいイベントになりました。

（障害者高等教育研究支援センター　飯塚 潤一）

囲碁講演会で講演する森野先生

囲碁将棋大会後の集合写真

つくば科学フェスティバル 2014 へ参加

11 月 8 日、9 日につくばカピオにて「つくば科学フェスティバル 2014」が開催されました。産業情報学科（機械工学領域）の教員と学生が筑波学院大学と共同で、「やってみよう！マルチメディア体験」というテーマで出展しました。「科学フェスティバル」には二日間の期間中にのべ 17,520 人の来場者がありました。我々のブースでは多くの方々に、紙ヒコーキとカレンダーの作成、サーモグラフィーおよび光弾性の実験の実演、ロボットプログラミングなどを楽しんでいただきました。

（産業情報学科　丹野　格）

会場の様子

「音訳研修会」を実施

11 月 27 日、28 日、12 月 1 日の 3 日間、春日キャンパス講堂において、障害者高等教育研究支援センター主催の「音訳研修会」を実施しました。音訳指導講師として長年にわたりご活躍の恵美三紀子先生に指導をお願いし、本学朗読後援会の会員 16 名を対象に、第 1 日目は「音訳者が求める」のではなく「利用者の求める録音図書のあり方について 初心にかえって考える」というテーマで、音訳者は利用者の立場になって考えるのが基本とご指導いただきました。第 2 日目は、受講者からの質問を中心に、例えば数字の「0」は「レイ」と読みますが、例外的に「ゼロ」と読む場合についてなど丁寧な解説がありました。最終日は、学生から音訳リクエストの多い、医学書の中の単純でありながらも説明の難しい図について、実習を交えながら受講者の皆さんと一つ一つ検討し、先生からは「解説にならないように、余分な説明は省き、教えるのではなく伝えること」との指導がありました。また、休憩時間にも活発な質疑応答がなされ、終了後には「母音、連母音、同格語の読み方等を学び、正しい伝え方を勉強できた」「学んだことを活動に生かしたい」など有意義であったとの感想が多く寄せられました。朗読後援会の皆さんの今後のさらなる活躍が期待されます。

（視覚障害系支援課　納田 かがり）

研修会の様子

ロシア盲ろう者支援基金理事長等一行が来訪

10月21日、ロシア盲ろう者支援基金（Deaf-Blind Support Fund）理事長等一行5名が来訪し、村上学長、和田理事・事務局長、大越副学長、石原副学長との情報交換や天久保・春日両キャンパスの施設見学を行いました。ロシア盲ろう者支援基金は、今年4月にロシア政府の働きかけで設立された盲ろう者のためのNGOです。把握されていないロシア国内の盲ろう者の人口と生活におけるニーズを調査し、そのニーズを満たす社会的・専門的活動を行うことにより彼／彼女らの生活水準を向上させることを目的とした慈善団体です。今回の本学訪問は、交流協定校のバウマンモスクワ州立工科大学からの紹介により実現したものですが、視聴覚障害者支援という同じ目標をもつ機関同志として、今後の継続した交流が期待されます。

（国際交流委員会委員長　本間　巖）

意見交換の様子

関係者の集合写真

ロチェスター工科大学・国立聾工科大学のスコット先生が来訪

1月7日から8日 木曜日にかけて、本学のもっとも古い交流協定校であるロチェスター工科大学・国立聾工科大学（NTID/RIT）（米国）のScot Atkins先生が来訪しました。今回の来訪の目的は、今年度と来年度の相互の学生派遣・受入れについての情報交換であり、その一環として1月7日 水曜日に「米国ビデオリレーサービス（VRS）の歴史に学ぶ」をテーマとしてご講演いただきました。Scot先生は、これまでにVRSを提供する会社に長年勤務された経験があり、この講演ではその経験の中でご自身が見てきたVRS誕生から現在までの歴史をお話しいただきました。この講演会には、NTID/RITへの昨年度の派遣学生・教員や、今年度派遣予定の学生・教員を含め50名以上の参加があり、講演後の質疑応答も活発に行われました。

（国際交流委員会委員長　本間　巖）

講演の様子

日中大学間交流ペーパーカーレース 2014 開催

12 月 13 日、筑波学院大学を会場に「ペーパーカーレース 2014」が開催されました。産業情報学科（機械工学領域）の 2 年次の学生が筑波学院大学の学生と行う対抗レースで、CAD で作ったペーパーカーで走行タイムを競いました。これは機械設計製図演習の時間に CAD の操作法の練習と、設計のセンスの育成を兼ねて行う授業の一環としての行事です。タイムを競うという目的のもと、製作の条件に従って設計･製作した各自の紙の車を持ち寄り、15 メートルの直線コースで成果を競い合います。全長や幅はそれぞれ 200mm 以内、木の丸棒を用いた車軸以外は全てケント紙で作るという条件のもと、各自で設計し CAD で図面を描いてケント紙にプリントし、切り抜いて組み立てた紙の車です。配布された模型用のモーターとその軸用のプーリと電池ボックスを載せ、プーリを介した輪ゴムベルトの動力伝達で動輪を回す紙の車による競技です。

このレースは短大時代から続き、今年で 22 回目を迎えました。また、この会場から中国長春大学とインターネットを介したテレビ会議システムで結び互いの車を紹介し、その走りを見せました。以前は天津理工大学と結び開催しておりましたが鮑国東院長が長春に移り長春大学と結んでから 8 回目、以前も含め中国とのペーパーカーレースによる国際交流は 13 回目となりました。中国からは 30 台の車から選抜された 16 人の学生の作品 16 台、筑波学院大学からは 10 台、本学からは 8 台の車がエントリーし、互いに競い合いました。中継で紹介し合った車からデザイン賞として日本側、中国側からそれぞれ選びました。また、この大会に出場以来、毎年賞品持参で応援に駆けつけてくださる大内一義さん（本学短大 2 期生、日立製作所勤務）には特別賞が手渡されました。

今回のレースにも本学の村上芳則学長、長春大学の荘樹範副学長、長春大学特殊教育学院の張代治院長に出席いただき、多くの先生方の応援のもと学生達の授業の成果を競う楽しい大会となりました。

（産業情報学科　荒木 勉）

参加者の集合写真

就職講演会を実施

12 月 18 日、天久保キャンパス講堂において就職講演会を開催しました。全日本ろうあ連盟事務局長の久松三二氏を講師にお迎えし、『「生きる力」働くことの意味について』というテーマでお話をいただきました。

今回は学部の 3 年生 33 名の参加があり、学生との会話を交えながら和やかな雰囲気で行われました。聴覚障害を持ちながら社会で長年の経験を積み、「自分にしかできないことを見つけ、成功してきた」という大先輩からの講演は、就職活動を目前に控えた学生にとって、これから社会人となる自分を見つめ直す貴重な機会となりました。

（聴覚障害系支援課学生係）

講演する久松氏

企業向け大学説明会を開催

10 月 29 日に天久保キャンパスにおいて、聴覚障害系就職委員会主催による企業向け大学説明会を開催しました。この説明会は平成 10 年度から毎年開催されています。今回は 57 社から、およそ 80 名の方々の参加がありました。

この説明会は、本学から各企業等の人事・労務・社内教育等ご担当の方に本学の教育と学生についてご説明し、聴覚障害学生の雇用並びに職場適応に関する情報を提供することを目的としています。さらに、人事担当者等から伺った意見・要望等を元に、企業からの求人と学生の求職とのマッチングを図るほか、本学の今後の教育及び就職指導の在り方を検討する際の指針としています。

当日は、全体説明会及び情報交換会を中心として、授業や学内施設の公開も行いました。情報交換会では、今年度就職未定者の採用や平成 27 年 3 月卒業予定者の就職活動に向けた情報交換が行われました。今後も、企業の方々のご意見を参考に、よりよい企業向け大学説明会を開催していきます。

（聴覚障害系支援課学生係）

聴覚障害学生の就職活動について説明する石原副学長

情報交換会の様子

就職に役立つ労働法講座を開催

11 月 26 日、春日キャンパス講堂にて「知って役立つ労働法－働くときに必要な基礎知識－」と題し、茨城労働局総務部企画室 関 英之 室長補佐を招き、ご講演いただきました。参加したのは保健科学部の 3、4 年生 17 名です。

この説明会は、今回が初めての開催で、労働法の役割や労働組合の権利、労働契約、採用内定、就業規則、保険制度、年金制度、賃金の支払われ方、パワハラ、セクハラ、退職、解雇などに至るまで盛りだくさんの内容で説明いただきました。特に、採用内定取消しが認められる理由の中に「大学を卒業できなかった」という項目があったことについて、4 年生は卒業論文を頑張って仕上げないとせっかく内定をもらったのに就職できないことを思い知らされていました。

また、質問としては「通勤などで怪我をした場合は労災保険の対象となるのか」、「視覚障害者だからといったことで差別されることはあるのか」、「差別された場合どうすればよいのか」、「組合にはどのように入ればよいのか」、「1 年ごとの契約社員としての採用だが、どの段階で解雇されるのか」、「契約書などはデータでもらえるのか」といった具体的なものが寄せられ、参加した学生はとても不安を抱えている状況であることが分かりました。一方、講師からの「身近に労働基準監督署やハローワーク、日本司法支援センター（法テラス）などがあり、全て無料で相談に乗るので、一人で悩まずに気軽に相談してほしい」という話に、少し安心している様子も伺えました。

（情報システム学科　嶋村 幸仁）

講座会場の様子

情報システム学科の第１回模擬面接会を開催

１月 11 日、情報システム学科の３年生を対象とした第１回模擬面接会を実施し、９名の学生が参加しました。模擬面接官には、人財・キャリアマネジメント研究所所長 菊地 達昭先生、法政大学大学院政策創造研究科教授 石山 恒貴先生をお迎えし、各学生が１人ずつ面接室に入って本番さながらの模擬面接を行いました。学生は、他の学生が受けている面接の様子を同じ面接室で聞き、お互いが勉強できる体制で行いました。面接直後にフィードバックとしてよい点や改善点についての具体的なアドバイスをいただき、今後の面接試験に向けて、とても有意義な模擬面接会となりました。

（情報システム学科　嶋村 幸仁）

個別面談の様子

講評の様子

ランチタイム英語サロン、TOEIC 対策講座を開催

11 月 17 日、天久保キャンパス 214 教室において日本 ASL 協会からアメリカ人ろう者マーティン・デール - ヘンチ氏を講師に招き、産業技術学部生、研究生及び大学院生を対象とした第２回ランチタイム英語サロン、第２回 TOEIC 対策講座を実施しました。ランチタイム英語サロンは、ネイティブスピーカーとの対話をすることで英語に触れる機会を増やすことを目的に実施され、日常会話表現や日本とアメリカの文化の違いについて、講師との対話を交えた講座を行いました。また、サロンのあとに実施された TOEIC 対策講座では、英会話力とビジネス英語力の向上を目指した内容で講座を行いました。講座は日本手話と英語の筆談で行われ、講師と学生が円滑なコミュニケーションをとりながら進行していました。なお、２つの講座は 12 月 22 日までの毎週月曜日実施されました。

（障害者高等教育研究支援センター　松藤 みどり）

ランチライム英語サロンの様子

TOEIC 対策講座の様子

「聴覚障害者のための社会連携・協調型教育拠点の構築事業」を開始

本事業では、本学がこれまでに培ってきた聴覚障害者への専門的教育環境・教育資産を活かし、大学と特別支援学校との組織間連携における協調型教育プログラムを実践するための教育拠点の形成を目指しています。

人材力強化のための教育戦略の一環として、地域活性化の核となる大学の形成が求められており、本学においては、全国的な聴覚障害者コミュニティを一つの地域として捉え、その環境を活性化するための機能の強化を図っています。

平成26年度は本事業を「高大連携プロジェクト」という産業技術学部を挙げたプロジェクトとしてスタートさせ、教育資産の積み上げのため、高精細の造形が可能な3Dプリンタや、物理量測定システム、3Dレーザースキャナ、多地点共有通信システムを導入しました。これらのシステムを活用して、最先端のものづくりを学べる環境づくりを進めていきます。

今後は全国のろう学校との連携による協調型教育プログラムの一環として、手話・字幕・画像等の様々な情報を同時に効率よく共有できる多地点共有通信システムを用いた遠隔協調授業を実施する予定です。

このような取り組みは、学生の専門性、協調性、自主性、実行力の向上が直接的な効果として期待されると同時に、連携機関にとっては、本学教育資産の活用、技術教育啓発への波及が期待できます。

将来的には、このプロジェクトを核として、本学が聴覚障害者のための生涯教育拠点となることを目指しています。

（産業技術学部産業情報学科　谷　貴幸）

プロジェクトイメージ

立川ろう学校及び葛飾ろう学校との多地点間中継を実施

12月9日、都立立川ろう学校・葛飾ろう学校と本学をテレビ会議システムで接続し、立川ろう学校専攻科、葛飾ろう学校専攻科の修了研究の中間発表会の多地点間中継を行ないました。

これは、産業技術学部が数年前から行ってきた都立ろう学校との連携事業を踏まえ、「聴覚障害者のための社会連携・協調型教育拠点の構築事業」（高大連携プロジェクト）の一環として行われたものです。

各ろう学校からは、機械系、情報系、総合技術系の生徒の発表があり、技大で発表を見ていた本学学生からも積極的な質問がありました。

平成26年度より開始した高大連携プロジェクトでは、全国のろう学校と技大とをネットワークで結び、協調型教育プログラムを実践するための教育拠点の形成を目指しています。

（産業技術学部産業情報学科　西岡 知之、谷 貴幸）

質問をする本学学生

テレビ会議越しに発表するろう学校生徒

第 34 回つくばマラソンにマッサージボランティアとして参加

11 月 23 日、秋晴れの下、第 34 回つくばマラソンが開催されました。今年も、鍼灸学専攻の 3 年生と有志学生が、同専攻の専攻長の野口栄太郎教授と、東西医学統合医療センターの福島正也助教の監督のもと、ランナーの皆さんにマッサージを提供して参りました。

筑波大学構内に設置されたブースには、毎年継続して実施してきた成果か、昨年の 1.5 倍にあたる 150 名という大変多くの方がご利用下さいました。繁忙時には 45 分待ちという大変な混みようでした。利用者からは、「体が軽くなりました。」、「お陰様で家に帰れます。」、「技大がボランティアを行っているのは知っていたのですが、初めてお世話になりました。」、「来年も楽しみにしています。」等の喜びの声を沢山頂戴いたしました。

今回学生たちは、ボランティア施術を介して、42.195km を走り切った直後のランナーの身体を直に診せて頂くという、大変貴重な機会を得ることが出来ました。また、施術を受けたランナーの方々からは、多くの声と元気を頂きました。この日、沢山の経験と喜びを手に入れて、これからも、もっと良い治療者になれるように努力を続けよう！精進しよう！と志を新たにしたようです。

（保健学科鍼灸学専攻　笹岡 知子）

チームの中心選手の吉野君

チームの中心選手の吉野君

本学学生が福祉機器コンテスト 2014 学生部門において最優秀賞受賞

本学保健科学部情報システム学科 3 年の松尾政輝くんが、福祉機器コンテスト 2014 の学生部門で最優秀賞を受賞しました。今年で 26 回目となる福祉機器コンテストは、日本リハビリテーション工学協会が主催するコンテストです。昨年の学生部門の最優秀賞は該当者なしでしたが、今年は見事に松尾くんが最優秀賞を受賞しました。応募した作品の名称は「視覚障害者も利用可能なバリアフリーゲーム Shadow Rine ～ Fullvoice Edition ～」で、松尾くんが製作した視覚障害者と健常者が一緒に遊ぶことのできるバリアフリーなアクション・ロールプレイングゲームです。障害の有無に関係なく楽しむことができ、同じゲームについての話題を共有できることを目指し、開発されました。本学に入学してから作り続けてきた「視覚障害者と健常者が一緒に楽しめるゲーム」がこのような形で認められ、名誉ある賞を頂けたことは、今後の研究開発の大きな励みになることと思います。松尾くんは、「今後もこの賞に恥じないように研究や作品作りに取り組んでいきたいです。」と抱負を述べていました。

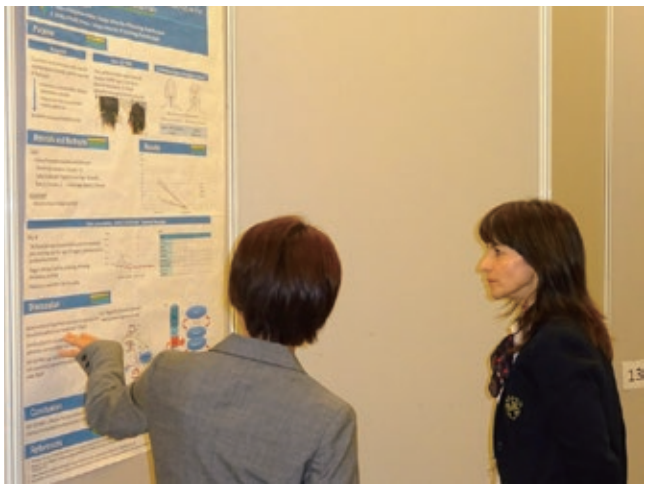
（情報システム学科　坂尻 正次）

授賞式に駆け付けたご家族と友人たちと喜びの一枚
（写真中央が本人）

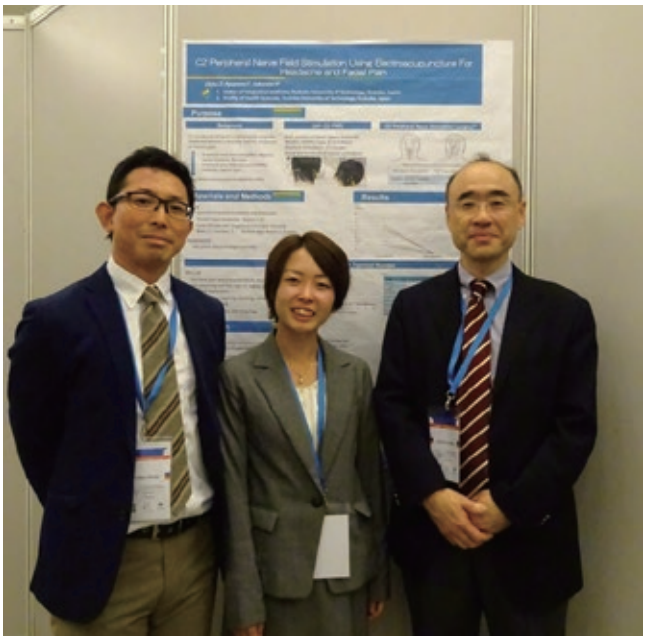
● 東西医学統合医療センター研修生・知久すみれさんが国際学会発表

東西医学統合医療センターの研修生の知久すみれさん（鍼灸師）が10月10から11日にセルビア共和国の首都ベオグラードで開催された7th European Congress for Integrative Medicine（第7回 ヨーロッパ統合医療学会）で発表しました。発表演題のタイトルは“C2 Peripheral nerve field stimulation electroacupuncture for headache and ficial Pain”です。C2 Peripheral nerve field stimulationは、当センターで脳神経外科の鮎澤聡医師とともに知久さんが中心に取り組んでいる新しい鍼治療の方法です。その効果は、特に難治性の疼痛に対してみられ、今回は改善がみられた症例を報告しました。学会場では、東欧諸国を中心に各国の統合医療、補完代替医療の研究者や臨床家が集まり、基調講演をはじめ様々なセッションが行われていました。

（東西医学統合医療センター　櫻庭　陽）



説明する知久さん



発表ポスターの前で記念撮影

● マレーシア国際切手展で「The　Blind」が大金銀賞を受賞

12月1日から12月6日にかけてマレーシアのクアラルンプールで開催されたマレーシア国際切手展2014において、保健科学部保健学科の大沢秀雄准教授の作品「The Blind」が大金銀賞を受賞しました。本作品は日本国際切手展2011に出品した作品を基に、その後、新たに入手した切手などを追加して、改良したものです。

写真は今回の作品のリーフ36で、1974年にサウジアラビアから発行された盲人の日の特殊切手とその原画などを展示したものです。

（広報室）

作品の一部

アプリアイデアコンテストで本学学生が受賞

つくば市の魅力発信を目的に、スマートフォンやタブレット端末向けのアプリケーションのアイデアを募る「つくばアプリアイデアコンテスト」で本学の学生グループが最優秀賞、優秀賞に選ばれました。

コンテストはつくば市内の三大学だけでなく、海外からの応募なども含み、小学生から大人まで、数多くの作品が集まりました。本学からも産業技術学部総合デザイン学科の鈴木拓弥准教授の指導の下、複数の学生グループが作品を応募し、同学科三年生の岩渕亜依さん、猪熊桃子さん、鹿森優香さん、吉川萌音さん、保健科学部情報システム学科の佐藤久人くん、北村直也くんの６人のグループ作品「つくBUS」が最優秀賞に選ばれました。路線バスの検索機能や自らの体験を踏まえた障害者に便利な機能など、実現化を想定した完成度の高さや、一般の人にとっても活用できるアイデアが評価され、今回の受賞となりました。

また、総合デザイン学科の君島清花さん、田中里保さん、増田楓南さんのグループの作品「つくばサイクリング」、三瀬稜史くんの作品「つくばイベントカレンダー」もそれぞれ優秀賞に選ばれました。

受賞作品は今後、市の各担当課で実現に向けて検討が進められる予定です。

（総合デザイン学科長　長島 一道）

つくば市長から表彰される本学学生

第 29 回全日本視覚障害者柔道大会で本学学生が活躍

11 月 24 日、東京都文京区の講道館において、第 29 回全日本視覚障害者柔道大会が開催されました。保健科学部からは、小林史弥くん、熊谷祐太くん、市場大亮くん（共に情報システム学科）と阿部勝也くん（保健学科理学療法学専攻）の４名が出場しました。また、本学卒業生の有安諒平くん、半谷静香さん（共に保健学科理学療法学専攻）も参加しました。

結果は、個人戦で、熊谷くんが 66kg 級で準優勝でした。このため、2015 年５月にソウルで開催される「IBSA 世界大会」の代表に内定しました。この大会はリオデジャネイロパラリンピックの出場枠を争う重要な大会です。熊谷くんの健闘を祈ります。

（障害者高等教育研究支援センター　村上 佳久）

賞状と記念メダルを持った参加者

本学学生が「デフバスケットボール女子日本代表選手」に決定

本学産業情報学科３年橋本樹里さんが、2015 年７月４日から７月 12 日に台湾で開催される「第４回デフバスケットボール世界選手権大会」に、女子日本代表選手として選出されました。橋本さんは、チーム内最年少ながら監督からの信頼も厚く、期待の選手です。他にも、卒業生の緒方沙織さん（2010 年度）、田原知佳さん（2011 年度）も選出されました。

（障害者高等教育研究支援センター　中島 幸則）

合宿参加の面々

EXILE の TETSUYA さんが来学

10 月 20 日、EXILE の TETSUYA さんが「聴覚障害を持つ学生がダンスを踊る姿を一目見てみたい…」という思いで、忙しいツアーの合間をぬって本学ダンスサークル『SOUL IMPRESSION』の練習を見学に来られました。当初は見学だけの予定でしたが途中から TETSUYA さんも一緒に練習に参加され、最後は TETSUYA さんの指導で EXILE『Choo Choo Train』を踊りました。学生にとってとても有意義な時間となりました。

（障害者高等教育研究支援センター　中島 幸則）

学生と記念撮影をする TETSUYA さん（中央）

野球部学生が北海道日本ハムファイターズ石井裕也選手と交流

11 月８日、千葉県の鎌ケ谷スタジアムにて野球部の学生が北海道日本ハムファイターズで活躍する石井裕也選手と交流を行いました。聴覚障害を持つ石井選手は「サイレントＫ」とも呼ばれ、学生には憧れの選手です。そんな石井選手から直接投球指導を受けたり、サインボールをもらうなど、とても有意義な時間を過ごしました。

なお、当日の模様は北海道日本ハムファイターズの公式ホームページ内にも掲載されています。

（障害者高等教育研究支援センター　中島 幸則）

石井選手（中央）と記念撮影をする野球部学生

筑波技術大学ニュース　第33号　　発行　筑波技術大学 広報室　　編集　筑波技術大学 総務課
発行日　平成27(2014)年２月　　〒305-8520 茨城県つくば市天久保４丁目 3-15　　URL http://www.tsukuba-tech.ac.jp/
E-Mail kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp　　Tel 029-858-9311　　Fax 029-858-9312